

平成20年11月18日	資料3
(仮称)こども発達支援センターあり方検討会	

心身障害者福祉センターにおける発達支援事業

1 気になる段階からの支援～「発達サポート広場事業」～

(1) 目的

障害児を育てる保護者は、一般の子育てグループに入ると疎外感などを感じることもあることなどから、子育てグループの利用を敬遠しているケースがあり、気軽に育児について打ち明ける場所が少ない。

そこで、このような親の不安解消のための交流の場を整備し、気軽に利用できるような仕組みとすることで、障害児を抱える親の育児不安の軽減を図るとともに、相談支援の充実を図ることとする。

(2) 対象

これまでに中村橋福祉ケアセンターにて相談を受け、心身の発達に何らかの心配がある未就園・未就学児とその保護者とする。

ただし、現在何らかの療育を受けている方を除く。

(3) 内容と方法

事業に参加される方の状況に即して、つぎのように対応する。

- ① 個々のニーズや発達状況に応じた相談や、個々に必要な情報を提供する。
- ② 保護者へのグループカウンセリングを行う。
- ③ 幼児への遊具・玩具を利用したグループ遊びや運動遊びを行う。

(4) 実施日時

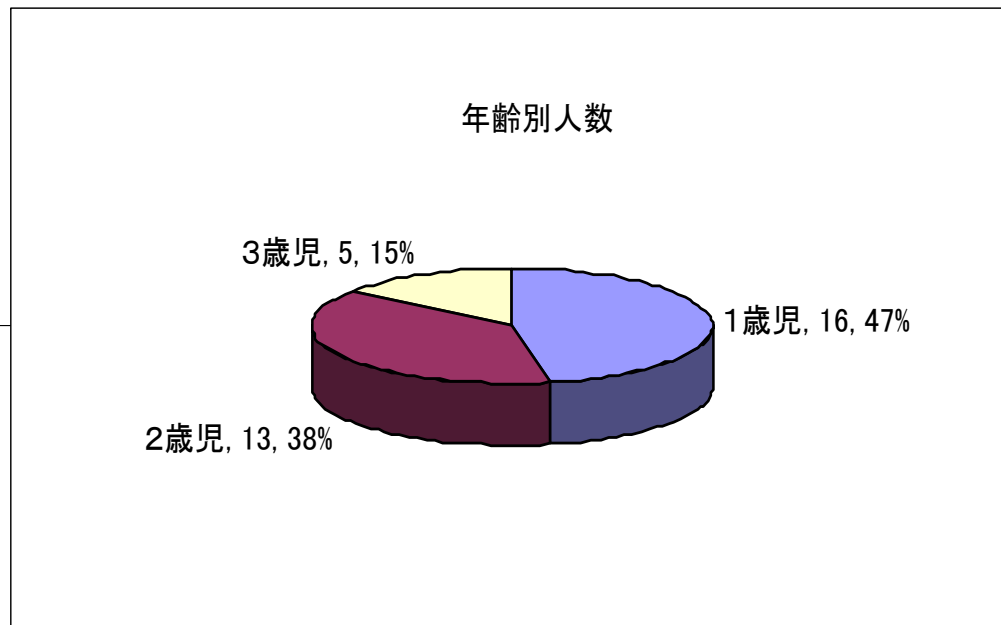
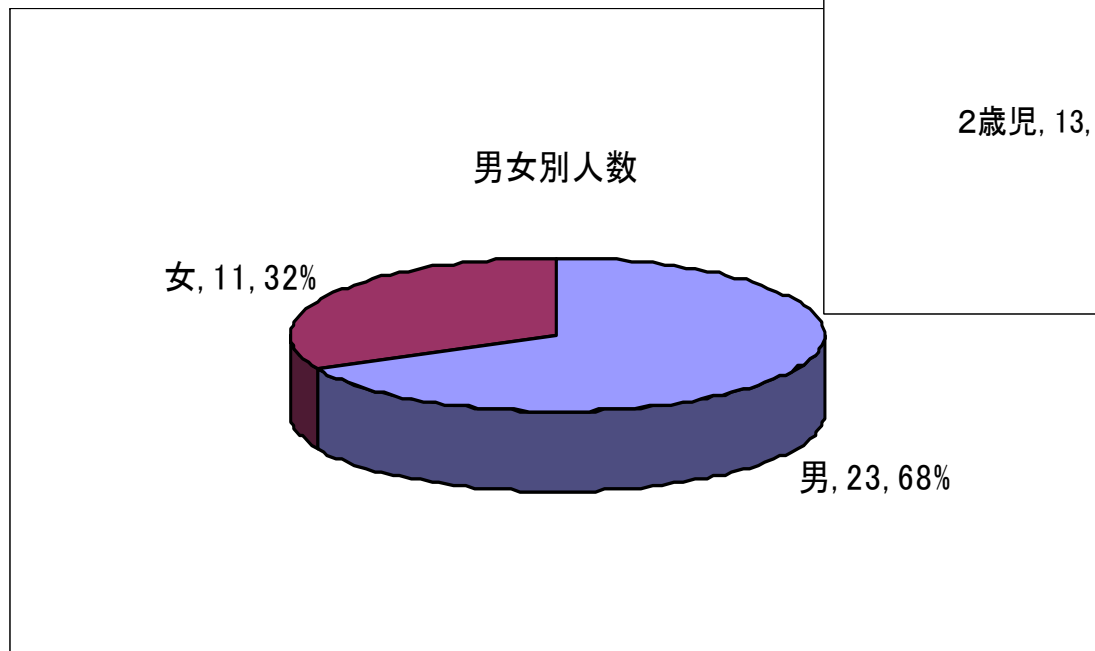
毎週金曜日 午前 10 : 00～12 : 00

(5) 平成19年度の発達サポート広場の実施結果

① 利用児童の実人数

ア 年齢別内訳

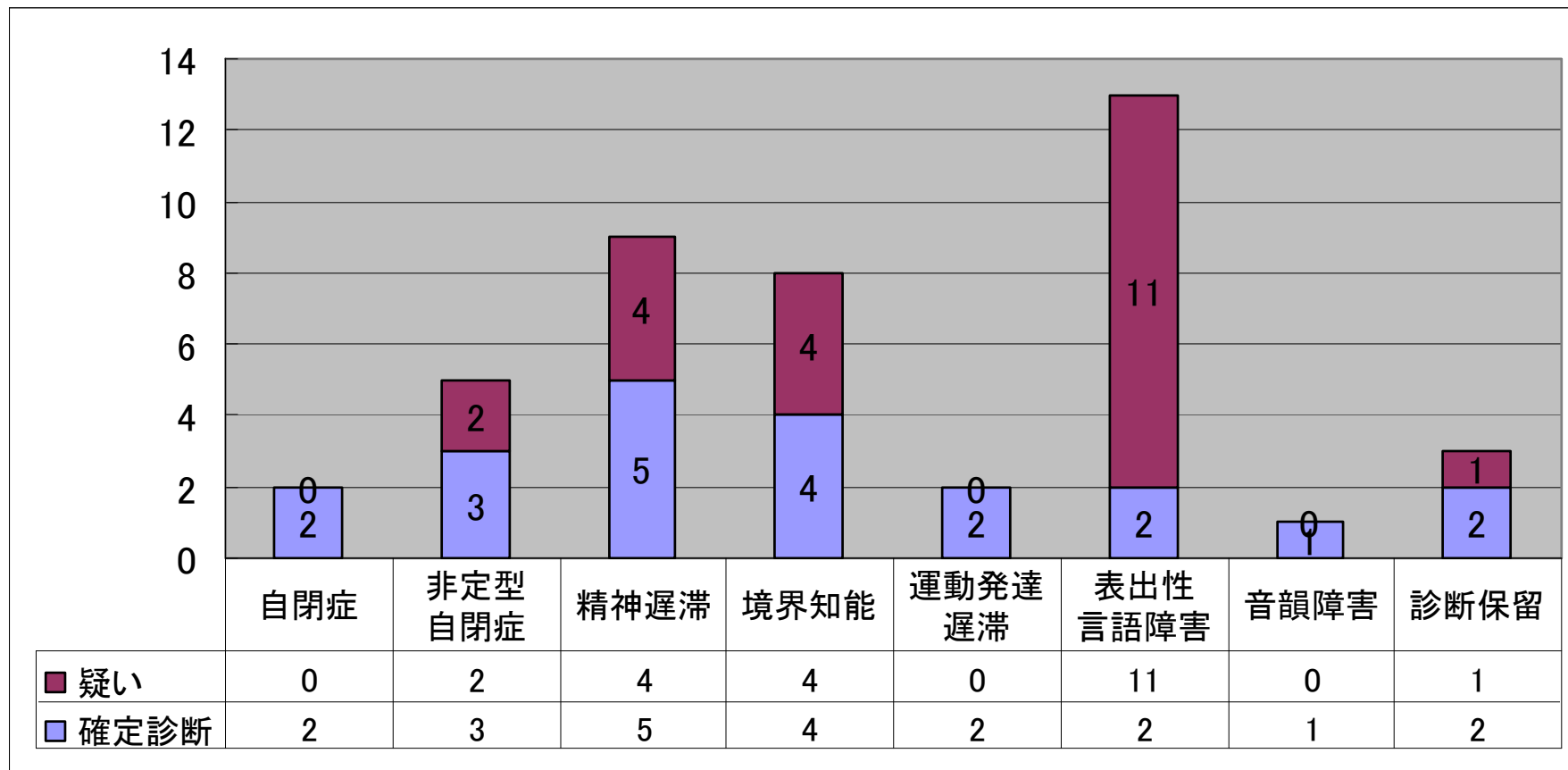
	1歳児	2歳児	3歳児	計
人数	16	13	5	34



イ 男女別内訳

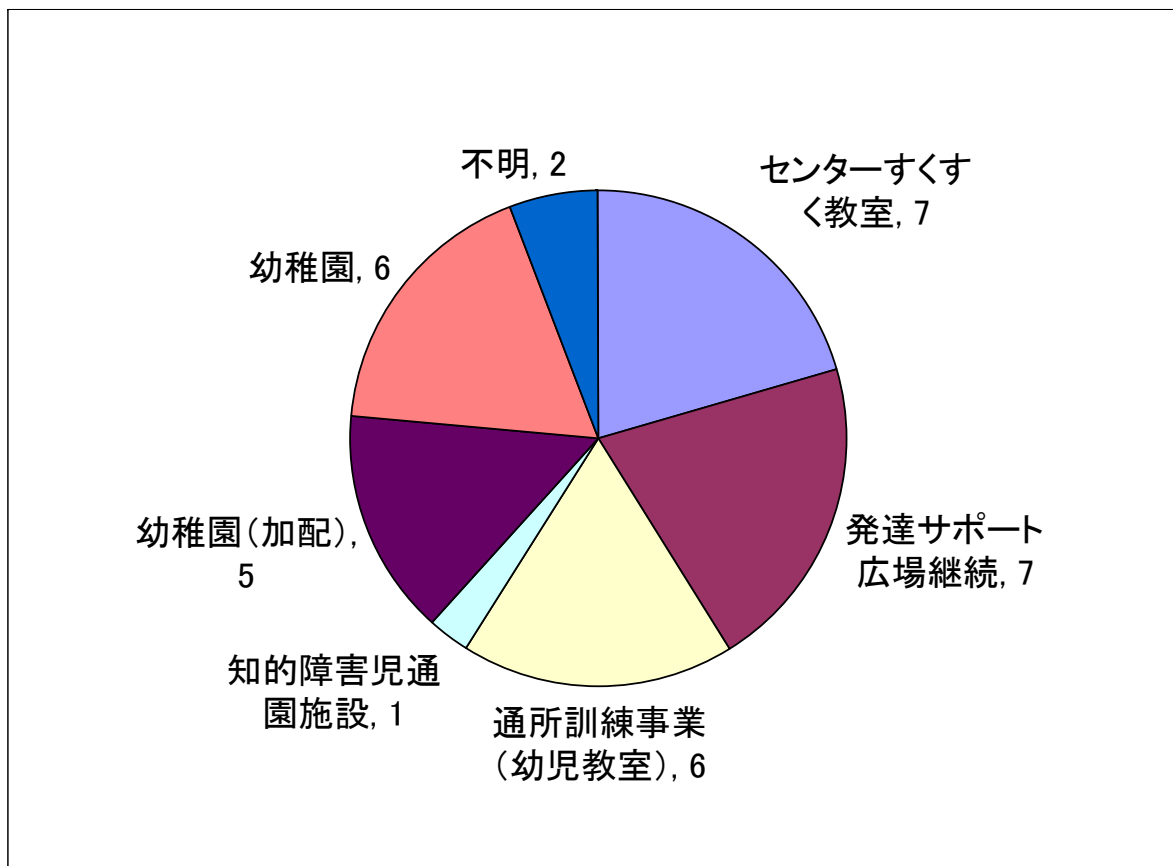
	男	女	計
人数	23	11	34

② 発達サポート広場利用児童の障害名（平成19年度）



※ 「疑い」は、初診時確定診断にいたらず、当該障害を疑うもの。複数の診断名がある児童がいるため、合計した人数は在籍実人員と異なる。

③ 発達サポート広場利用児童の進路（平成19年度）



進路内訳	人数
センターすくすく教室	7
発達サポート広場継続	7
通所訓練事業(幼児教室)	6
知的障害児通園施設	1
幼稚園(加配)	5
幼稚園	6
不明	2
計	34

※ 発達サポート広場を継続することで、すくすく教室通所への抵抗感が減少するケースがある。

2 未就園児支援～「すくすく教室事業」～

(1) 目的、対象など

心身に障害をもつ就学前の子どもであって、保育園や幼稚園等を利用していない子どもを対象に、児童デイサービス（ちゅうりっぷ組とたんぽぽ1組～6組）および法外の通所（つくし1組～2組）を行なっている。

(2) クラス編成（現員数は20年3月31日現在）

対象児	クラス名	クラス数	通園	療育時間	定員	現員	欠員
肢体不自由児、重複障害児 （2歳児以上）	ちゅうりっぷ	1	週3回	4時間	12名	7名	5名
自閉症児、知的障害児 （対人関係の改善や 問題行動の軽減）	中重度自閉 問題行動多い	たんぽぽ1	週2回	2時間	10名	10名	0名
（2歳児以上）	軽度自閉 問題行動少ない	たんぽぽ2	週2回	2時間	10名	10名	0名
知的障害児および軽度の運動機能障害児 （2歳児以上）	たんぽぽ3～ 6	4	週2回	2時間	40名	40名	0名
発達に遅れのある1歳児 （1歳6ヵ月以上）	つくし1、2	2	週1回	2時間	24名	24名	0名
計		9			96名	91名	5名

※ ちゅうりっぷ組の4歳児以上が週3日（3日目は2時間療育）通所となる。

※ ちゅうりっぷ組での医療的ケアは、保護者が対応する。

※ つくし組は母子一緒の療育。その他は母子分離となる。

(3) すくすく教室の療育内容

(例) たんぽぽ組(1・2) デイリープログラム (たんぽぽ1組は午前、2組は午後に実施)

時 間	プログラム	内 容	ね ら い	時 間
9:30	入室、身支度	連絡帳をかごに入れる かばんをロッカーに入れる	・絵カードでの物の理解、物の名前を覚える ・言葉や指差しでの指示理解 ・自分の物に気付き、簡単な身支度をする	13:00
	自由遊び	身体を使って遊ぶ 遊具で遊ぶ	・自分の好きな遊びを見つけ、楽しむ ・人との関わりを広げ、深める	
	乾布摩擦	衣服の着脱。衣類をたたむ、 身体を擦る	・身体部位を意識する ・皮膚刺激の経験をする	
	親子体操(週1回)	親子で一緒に身体を動かす	・運動の感覚や身体の動かし方を身につける	
	レコード体操	曲に合わせて身体を動かす 粗大運動(四つ這い、かけっ こなど)	・自分の身体を意識して動かす ・人の動きを見て真似する ・集団の動きに慣れ、楽しむ	
	認知課題学習	集団で同じ課題に取り組む	・サーキット形式で運動及び認知発達を促す	
10:20	排泄	トイレに行き排泄をする	・トイレット・トレーニング	13:50
	集まり	椅子に座って参加 名前呼び、手遊び、紙芝居等	・着席行動、注目、模倣活動を促す ・自分の名前がわかり返事をする	
	認知課題学習 (週1回)	一人ひとりの発達に応じた 教材に取り組む	言葉の理解や考える力を中心に言葉を支える基礎力 の豊かな発達を促す	
	机上活動 戸外遊び	感触遊び・製作等 散歩・プール等の戸外活動	・感触遊びや製作等を楽しむ ・のり・はさみ等の道具の使い方を学ぶ ・自然に触れたり、歩く力を育てる	
11:10	集まり、懇談	報告や連絡、質疑応答の場		14:40
11:30	帰宅			15:00

(4) すくすく教室の保護者への支援

家庭での療育に必要な情報等を提供する場として、「ひまわり教室」という学習会を開催している。

(例) 平成19年度のひまわり教室の事業内容

回数	月日	時間	内容	講師
1	5月21日(月)	AM	就学について	学務課職員
2	6月1日(金)	AM	就学について	先輩お母さん(心障学級・普通学級)
3	6月7日(木)	AM	就学について	先輩お母さん(養護学校)
4	7月6日(金)	AM	就園について	先輩お母さん(保育園)
5	9月21日(金)	PM	遊びをとおしての発達の支援	センター職員(作業療法士)
6	10月16日(火)	PM	保育園の就園について	保育課職員
7	11月12日(月)	PM	ことばについて	センター職員(聴覚言語士)
8	12月4日(火)	PM	発達障害について	センター管理医師(児童精神科医)
9	1月24日(木)	PM	子どもの関わり方	センター職員(心理)
10	2月14日(木)	AM	療育・学校生活を振り返って	先輩お母さん

※ 時間帯について・・・AM：9：30～11：30、PM：13：00～15：00

3 就園児への支援グループ支援

保育園や幼稚園などに在籍している障害児を対象に、福祉（保育士等）、心理、ST、PT、OTなどの専門職種が、年齢や障害に応じて、チームを組み、小グループでの支援を行う。1グループの定員は6名で全27クラス、訓練時間は1時間15分程度である。

前項の個別支援の対象児数が増加したため、平成17年度途中から個別から小グループで対応することとしたもの。これに伴い、ST、OT、PTの職種別で行っていたグループ指導は廃止した。

療育の目的	対象児	クラス名	組数	担当職員（職種）					人数	通園日	定員	現員	欠員
				福祉	心理	OT	PT	ST					
認知訓練	4・5歳児	うさぎ	4	○	○				3名	週1回	24	19	5
	5歳児	うさぎ	3	○	○				3名	週1回	18	17	1
集団経験、ルールの理解	3歳児	パンダ	1	○	○			○	3名	週1回	6	6	0
	3・4歳児	パンダ	2	○	○			○	3名	週1回	12	12	0
	4・5歳児	パンダ	2	○		○		○	3名	週1回	12	11	1
	重度児	すみれ	4	○	○				4名	週1回	24	22	2
ソーシャルスキルトレーニング	3・4歳児	コアラ	2	○	○	○			3名	隔週1回	12	12	0
	4・5歳児	コアラ	2	○		○			3名	隔週1回	12	8	4
	5歳児	コアラ	2	○	○	○			3名	隔週1回	12	9	3
運動発達訓練	上肢機能	いちご	2	○		○			3名	週1回	12	12	0
	未歩行児	いちご	1	○			○		3名	週1回	6	0	6
言語訓練	構音障害	くま	1	○	○			○	3名	週1回	6	5	1
言語発達訓練	年長児	とら	1	○				○	3名	週1回	6	6	0
計			27								162	139	23